

1 はじめに

本校では毎年全校生徒一人一人が学校のスローガンを考え、生徒会で話し合っただけで決めている。今年度は、「**把手共行～果敢で在り 懇篤で在れ～**」というスローガンをたて活動してきた。このスローガンは、「手を取り合い共に進もう」「決断力と真心をもって生活しよう」という2つの思いから成立した。

また本校では「**河中5つの誇り**」という、一年を通して重点目標としているものがある。生徒一人一人が5つの目標を意識して生活することで、河中生としての誇りをもつことができるようにするものである。

河中5つの誇り

- ①誰とでも交わし合う明るいあいさつ
- ②時間を意識した学校生活
- ③きれいな学校・地域をつくる清掃活動
- ④心を通わせ美しく響く歌声
- ⑤目標に向かって仲間と励む部活動

2 資料

(1) WE CLEAN

各家庭で出た空き缶や段ボールを、JRC 委員が中心に回収する。回収した資源はリサイクルし、生徒会活動や部活動の資金としている。WE CLEAN マッチを開催し、クラス別に回収率を競うことで参加する生徒が増え、ボランティアの精神を培う一端を担っている。

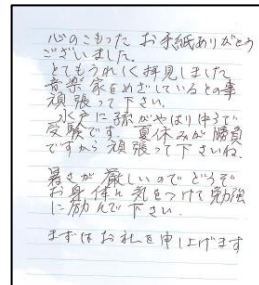
(2) 総体や新人戦の壮行会

総体の壮行会では、1, 2年生で応援団を結成し、先輩への熱い想いを込めた応援によって3年生の士気が高まった。応援の流れは応援団長を中心に生徒が自分たちのアイデアを出し合っただけで考えた。学校全体が一丸となって総体に挑もうとする心強い応援となった。



(3) 一人暮らしの高齢者に花を贈る活動

地域の一人暮らしのお年寄りの家に訪問し、近況を報告したりねぎらいの言葉をかけたりして交流を深める事を目的としている。今年度は感染症の影響で訪問できなかったため、「心のやすらぎ」を意味するペチュニアの種子に手紙を添えて送付した。多くの方から、お礼の手紙や電話をいただき、一方通行ではない、双方向の交流となっていることを実感した。



(4) 縦割り対抗レクリエーション

学年を越えて交流を深め、学校全体の団結力を高めたいという思いから生徒会が企画した。部活動以外、普段は関わりの少ない他学年と体を動かすレクリエーションを通して関わり合い、生徒達の笑顔が溢れる活動になった。



(5) 若竹祭(文化祭)

生徒全員が発表部、会場部、作品部、合唱部、式典部、広報部、ビブリオ部の7部門に分かれて活動した。事前の準備から当日の運営まで生徒主体で行った。作品部が主体となって活動したモザイクアートの全校制作(4.5m×10m)は、生徒たちはもちろん、来校した保護者や地域の方々からも、驚きと称賛の言葉があふれた。

3 成果と課題

成果としては、生徒一人一人が自分たちの活動の意義や、行事の目的を意識して積極的に活動に取り組む姿が見られ、何より、生徒たちが達成感や充実感を存分に味わえたことにある。

来年度の課題としては、感染症対策の観点から縮小していた学校行事が、今年度から元の形に戻りつつある一方、生徒数の減少・学級減が見込まれ、「より良いものにしたい」という思いと、「生徒の活動形態の工夫や負担感の軽減」とのバランスを見極めていく必要がある。